

## 鶴舞中央図書館点字文庫の活動について

愛知県 名古屋市鶴舞中央図書館

### 基本データ

所在地	名古屋市昭和区鶴舞 1丁目1番155号
職員数	50人
うち司書数	32人
蔵書数	1,399,414冊
利用登録者数	462,400人
年間貸出冊数	1,004,700冊
(児童用図書貸出数 243,167冊)	

### テーマ・活動のねらい等

【テーマ】バリアフリーの取組

【活動のねらい】

- 開設当初より、視覚障害者の読書環境を改善していくことを課題としてきた。現在では、取り組みの対象を広く視覚による表現の認識に障害のある方に拡大し、読書のバリアフリー化に取り組んでいる。

### 取組・活動の概要

- 点字文庫は、1929年9月に、全国に先駆けて鶴舞中央図書館（当時は市立名古屋図書館）に開設された。
- 開設にあたって、当時の阪谷俊作館長は「盲人の方々の為に点字図書を備え付けて、其研究と慰安の為に施設すべきことは申す迄もなく、創立の当初より常に考え来った処であります。」と、点字文庫の設置が開館当初からの課題であったことを述べている。
- 開設当初の蔵書数は207冊だったが、点字図書の不足を解消するため、点訳者に協力を求めて充実を図り、1943年には蔵書数1,074冊、館外貸出者数25,347人に達し、全国屈指の規模となった。
- 戦災により活動中止を余儀なくされたが、戦後本館の再建と共に1953年3月点字図書500冊で運営を再開、11月には送料を図書館が負担する形で全国を対象に貸出も再開した。
- 1956年には、厚生省（当時）が日本点字図書館に委託して作成した点字図書の長期貸出を受けられるようになり、現在まで続いている。点字製版機・点字印刷機の寄贈を受けて、1975年からは点字版の「図書目録」「新刊ニュース」の刊行を開始、この年からカセットテープの貸出も開始した。
- 1984年の鶴舞中央図書館新館開館と共に、録音図書作成のために録音室が設けられるなど

サービス環境が大きく充実した。既に図書館分館で先行して実施されていた対面読書サービスや、録音図書の製作を点字文庫でも開始した。



点字図書室（点字文庫）



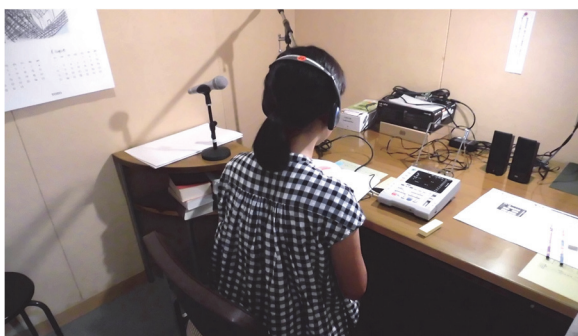
点字書庫

- 2001年からは本格的にデージー図書の製作・貸出を開始し、2014年には国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスに参加して、点字データ・音声データを利用者が直接ダウンロードして利用できるようになった。



製作デジ資料

- 2011年からは、点字文庫のサービス対象を視覚障害者から視覚による表現の認識に障害のある方に拡大し、視覚障害者にとどまらず広く通常の墨字資料の利用が困難な方を対象にサービスを提供している。
- 現在は、点字図書・録音図書の貸出点数を一人20点以内とし、2016年より再生機を持っていない利用者にデジ資料を録音したICレコーダーの貸出も行っている。
- 点字文庫の活動や、障害のある方の読書について知ってもらうため、夏休みには小学生を対象に親子体験教室(点字・音訳)を開催している。



親子点訳体験教室



親子点字体験教室

- 点字文庫では、戦後の活動再開後からボランティアの指導・育成に継続的に取り組んできた。
- 1954年7月に、名古屋盲学校等の援助をえて第1回点訳講習会を開催した。この講習会の参加者から点訳奉仕グループが生まれ、1956年1月には、有志によって点訳奉仕者グループ「六ツ星会」が結成された。
- その後次々に点訳・音訳のボランティアグループが誕生し、現在では点訳ボランティア・音訳ボランティアあわせて10団体・約150名が、利用者から依頼のあった資料の点訳・音訳に活躍している。
- 現在は、点訳ボランティア養成講座と音訳ボランティア養成講座を交互に数年おきに開催し、新規ボランティアの育成を図っている。
- 点字文庫の担当職員は2名のため、多くのボランティアに支えられて活動を行っている。

### 取組・活動の工夫や特徴

- 戦後の早い時期から点訳奉仕者の育成講習を開始し、以後継続的にボランティア養成に努めてきた。多くのボランティアの方の活動が、運営の支えとなっている。
- また、名古屋市では1984年に点字文庫の専任職員として、全盲の司書を採用した。障害を我が事として理解できる職員を中心に、技術や情報環境の変遷にあわせてサービスや活動を変化・改善させてきた。

### 取組・活動の成果や今後の展望

- 図書館に設置された点字文庫として、読書バリアフリー法でも目標とされているように、広く普通の活字が読みづらい方の読書のためにサービスの充実を目指している。
- 今後は録音・点字図書以外のテキストデータを収集・提供して利便性向上を図りたい。読書バリアフリー法制定に伴って、国や県による環境整備や補助金の充実を期待する。